

会報『北の縄文』が第30号を迎えました。

北の縄文道民会議の会報『北の縄文』は、今回で第30号となりました。これまで作成にあたり、ご寄稿やご協力をいただきました皆様、毎号を楽しみにしていただいた会員の皆様には、心から感謝を申し上げます。

道民会議は、2012年、縄文世界遺産登録の実現に向けて発足し、官民あげての要請活動や、縄文の魅力発信に取り組んでまいりました。その様子をぜひ、会員の皆様にしかりとお伝えしたいと考え、北海道庁縄文世界遺産推進室の皆さんのお力をいただき、2016年10月に念願の創刊号を発行したのが始まりです。

それ以来、季節ごとに年4回、毎号の巻頭には、縄文を愛する経済界、行政、団体の皆様からリレー式にご寄稿をいただき、また、地域の学芸員の方や縄文をテーマに活動する会員の皆様からもたくさんのご協力をいただいております。

2021年7月に世界遺産登録が実現しましたが、さらに広がっている会員の皆様の活動や、世界遺産となった遺跡に限らず全道各地の縄文の魅力を一層、ご紹介して参ります。

2021年秋からは、縄文初心者の方々向けの小冊子「縄本JOBON（ジョーボン）」の制作・発行も開始し、会報に同封してお送りしています。ともにご愛顧いただきたく思います。



【戒谷事務局長&谷編集長】
縄文の記憶と記録を残せて良かったです。発刊にあたりご指導いただいた道の縄文世界遺産推進室のスタッフの方々に感謝申し上げます。今後も皆様のご協力をいただき、頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



- ◆会報や小冊子「JOBON」のバックナンバーは、道民会議のホームページでご覧いただけます。
- ◆ホームページのほか SNS (Facebook ページ、インスタグラム)、YouTube チャンネルで、縄文の魅力や活動状況を日々発信しています。



会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。
今年の干支（えと）は「甲辰（きのえ・たつ）」です。辰年にあやかり「昇り竜（辰）の如く活気に溢れる1年」になることを希うばかりです。
この度、会報『北の縄文』30号をお届けしました。（株）ほくていホールディングス代表取締役会長・加藤欽也様、当会議・荒川裕生代表からご寄稿いただきお礼申し上げます。本号は北の縄文をめぐる2023年のトピックス、2024年のイベント情報を盛りだくさん掲載しました。2月には3年ぶりに『縄文雪まつり』を開催します。乞うご期待!!
今年の夏には「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産に登録されて3周年を迎えます。編集局一同「一竜一猪」を肝に銘じ、会員の皆さまにご愛読いただける会報の編集に努めて参ります。

編集
後記

編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議（北の縄文道民会議）
編集 谷 紘道 編集委員 依田 妙恵
TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutani@chuo-bus.co.jp

北の縄文

HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

新年あけましておめでとうございます

CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2-3 北の縄文文化回廊を巡って（最終回）
- P4-5 トピックス・お知らせ
- P6 石狩振興局からのお知らせ
- P7 胆振総合振興局からのお知らせ
- P8 事務局から、編集後記

巻頭あいさつ



北の縄文道民会議
理事 加藤 欽也

株式会社 ほくていホールディングス 取締役会長
昭和交通株式会社 取締役会長

2021年7月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されました。地元にも、世界に認められる歴史文化があるということは大変誇らしく感じます。

北海道という郷土の魅力を考える時に、一番に挙がるのは自然でしょう。道内で最初に世界遺産となった「知床」も、世界自然遺産としての登録でした。そして次に続くのは、自然の恵みを感じる食やアクティビティなど、現代の文化たち。近年ウポポイなどでアイヌの伝統文化が注目を集めるようになったものの、歴史といえば開拓使以降のことしか知らない人もまだ多いのが現状です。

しかし、ここ北海道には、1万年以上の単位で、人々が定住生活を送った歴史がありました。北海道の自然は、ただ魅力的なだけではありません。風雪と酷寒、野生生物の脅威……時に人々の暮らしに牙をむいたことでしょう。縄文遺跡群は、人々が肩を寄せ合ってまちをつくり、支え合って生きてきたことを伝えます。厳しい自然から身を守り、同時に恵みも受け、一瞬の景色に、一杯の食事に、幾世代もの人々が感動を重ねてきたのかもしれませんが、長年、人や物を運び、そこに込められる思いを届ける仕事に携わってきた私には、この歴史文化は北海道のさらなる魅力が込められたメッセージのようにも感じます。

個人的な思い出になりますが、学生の頃に遺跡発掘のアルバイトをしたことがありました。「割が良いぞ」と誘われたものの、炎天下、さえぎる物のない発掘現場での地道な作業。私はすぐに音を上げ、うまくさばったつもりが、帰りに雇い主から「次からはうつぶせで寝なさいな」と笑われました。わけを聞けば、発掘作業は下を見て掘り続けるため、背面のみが真っ黒に焼けるそう。顔を真っ赤にした私は寝ていたのがばれてしまったのです。そんな地道な発掘作業や研究に携わった方々、そして世界遺産登録に向けてご尽力された方々の長きにわたる活動に、深く敬意と感謝の意を表します。

世界遺産、つまりは人類の宝物となった歴史文化を持つ我々は、その価値と魅力を多くの人々に伝えていくことが次のミッションとなります。インバウンドを含め多数の観光客が再び訪れるようになった今、悠久の時を重ねてきた歴史文化のメッセージを感じていただけるように。北の縄文道民会議の活動を、さらに活性化させていきたいと思っております。



縄文文化回廊巡りの連載も最終回となりました。関連資産・鷺ノ木遺跡と昨年6月に国宝となった白滝遺跡群出土品、そして国宝が勢揃いした北海道博物館の特別展を振り返って、この連載を閉じたいと思います。

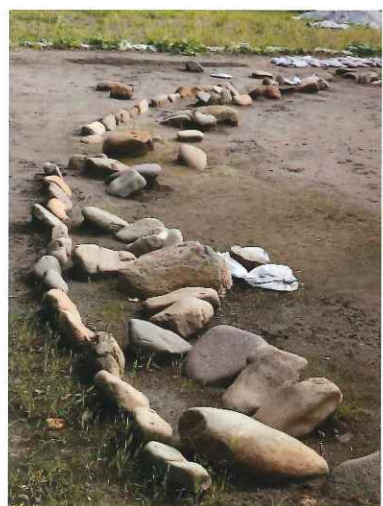
- 第1回(2023年冬・26号) 大平山元遺跡、亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、大森勝山遺跡
- 第2回(2023年春・27号) 御所野遺跡、大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡
- 第3回(2023年夏・28号) ニッ森貝塚、是川石器時代遺跡、小牧野遺跡、三内丸山遺跡
- 第4回(2023年秋・29号) 垣ノ島遺跡、大船遺跡、入江・高砂貝塚、北黄金貝塚、キウス周墳墓群

1 鷺ノ木遺跡(森町)

森町の鷺ノ木遺跡は、4000年前に造られた直径約37メートルの道内最大級の環状列石です。アクセス道路が未整備で遺跡保全のためにも通常は公開されて



いませんが、一昨秋に町教育委員会が実施した限定公開に参加することができました。



上) 道央道の鷺ノ木トンネル
～トンネルの上に環状列石
下) 二重に石が置かれたストーンサークル

この環状列石は、高速道路建設のための調査で発見され、関係者の並々ならぬ努力によってトンネル方式に変更されて現地保存が実現しました。1640年に噴火した駒ヶ岳の火山灰に覆われたため当時の形が保たれていて極めて貴重な遺跡です。世界遺産の構成資産に位置づけ

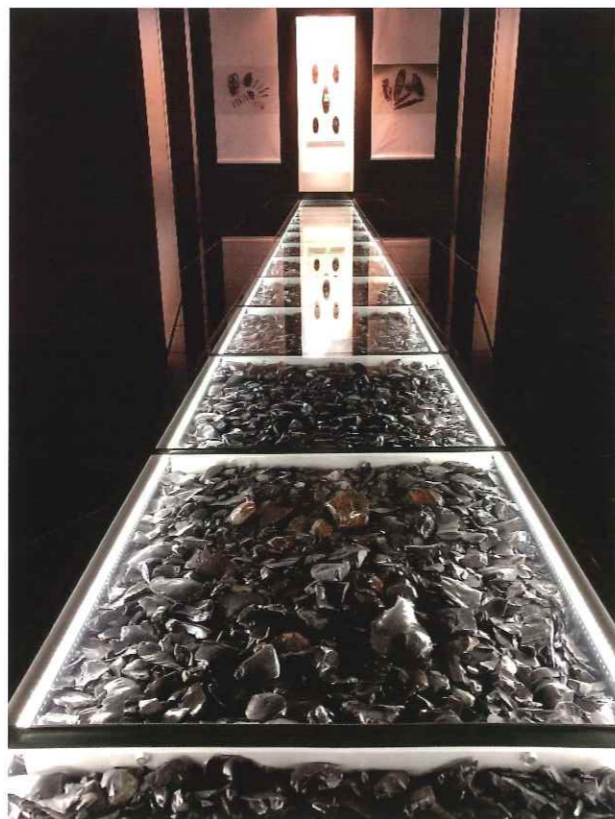
られなかったことはとても残念ですが、確実な保全措置が講じられ、見学のための施設やアクセス道路の整備、周辺調査によってさらに価値を高まることで、構成資産追加への道が開けてくることを期待しています。

2 北海道第二の国宝の誕生(遠軽町)

昨年6月、遠軽町の「北海道白滝遺跡群出土品」、旧石器時代(3万年前～1万5千年前)の石器1965

点が一括で国宝に指定されました。わが国で最も古い時代の国宝で、中には石器を製作する過程で生じたおびただしい数の剥片を、3次元のジグソーパズルのように重なり合う断面を見つけては接合していくという気の遠くなるような作業によって作り上げた「接合資料」もあります。当時製作された石器は旧石器人によって域外に持ち出されてしまったわけですが、その接合資料から、完成したであろう大型石器の形が再現されています。

最寒冷期の2万年前、北海道は大陸と地続きでした。マンモスなどの大型動物を追ってきたハンターたちが切れ味鋭い石器の材料となる良質な黒曜石を見つけ、さらにそれが無尽蔵に取れる赤石山を発



遠軽町埋蔵文化財センターの国宝展示室(国宝ギャラリー)



小さな剥片をつなげて当時の石器を再現

見した時の驚きと喜びはどれほどだったでしょう。1万5千年間の石器製作技術の発達過程を示す新たな国宝と北海道・北東北の縄文世界遺産によって、3万年にわたってヒトが行き交い、歴史を刻んできた北海道は北東アジアの北と南をつなぐ「回廊」である、ということがより鮮明になります。私たちはこのことをしっかりと共有し、次世代に伝えていかなければならないと思います。

3 「北の縄文世界と国宝」特別展(北海道博物館)

縄文世界遺産登録が実現して2周年を記念し、昨年7月22日から10月1日までの間、北海道博物館で特別展が開催されました。

国宝の土偶5点のうち4点の実物が展示され、国宝「火焰型土器」は開催期間を通じて見られました。私も国宝の実物をこの目で見ようと何度か足を運びましたが、特に長野県茅野市の仮面の女神(撮影禁止のため写真はレプリカ)からは、何か特別な力、オーラのようなものを感じました。道内の遺物も、千歳市の通称ビビちゃんやママチ遺跡の土製仮面、札幌市のイケメン土偶などがずらりと並んでその姿を見せてくれて、まさにオールスターキャストでした。

外国からのお客様が多かったことにも驚きました。縄文に対する世界の注目度は私たちが思っている以上に高いということですので、こうした関心や



左)縄文文化のシンボルの一つ火焰型土器



右)シャーマンの呪術道具か?「仮面の女神(複製)」

期待に応えられるよう、今後は、各遺跡においても世界遺産に相応しい魅力ある展示や解説が求められるものと考えます。

特別展は、入場者数が目標を大きく上回るなど成功裡に終わりました。大変な準備とロングランの運営に当たられた皆さまに改めて敬意と感謝の気持ちを捧げます。



札幌市N30遺跡出土の「イケメン土偶」(左)と千歳市美々4遺跡出土の動物型土製品「ビビちゃん」(右)

この特別展を記念して8月に開催されたシンポジウムで、海外の先史時代遺跡もたくさん見てこられた俳優の井浦新さんが発言された「縄文は地球の宝、人類の財産」という言葉が心に残ります。また、井浦さんとフリーペーパー「縄文ZINE」編集長の望月昭秀さんとが口を揃えて「(白滝の国宝、)こんなのはどこにもない!ぜひ見てほしい!」と熱く語られていました。

急激な寒冷化が起きた約4千年前、食料資源が減少するという事態に、縄文人たちは争って奪い合うのではなく、集落を小規模化、分散化させ、同時に一定の集落が共同して祭祀場をつくり、そこに集まって自然の恵みや祖先たちに感謝し、命の循環が続くことを祈りました。

かたや現代人は自然をコントロールできるという勘違いをし、地球に生かされている存在であるにもかかわらず「地球にやさしい」などという傲慢な言葉を平気で使っています。急速に進む温暖化などの気候変動に直面する私たちは、未来に向けて過去から学ぶべきことがたくさんあるのではないのでしょうか。

その意味で、私たちの身近にある世界遺産と国宝は、未来への道すじを照らす光を放っています。まずは北海道と北東北の長い長い歴史をたどる旅に出てみましょう。